

彙 報

会 長 影 山 太 郎

2008 年度第 3 回大会運営委員会

日 時：3 月 30 日（月）11:00～17:00

場 所：神田外語大学 1 号館 3 階大会議室

出席者：井上 優（委員長）、小野尚之、加藤重広、岸田文隆、小林正人、永瀬治郎、西村義樹、星 泉、吉村あき子（以上大会運営委員）、長谷川信子（神田外語大学：大会実行委員長）、岩本遠億、遠藤喜雄、木川行央、神谷 昇、大塚邦子（以上神田外語大学）

[報告事項]

- (1) 138 回大会の準備状況が報告された。
- (2) 小野尚之氏が次期大会運営委員長に指名されたことが報告された。
- (3) 懸案事項について確認した。

[審議事項]

- (1) 139 回大会（神戸大学）から大会 2 日目午前をワークショップにあてることにした。
- (2) 139 回大会のシンポジウムの企画を小野尚之次期委員長を中心におこなうことにした。
- (3) 138 回大会の応募要旨の審査をおこない、口頭発表 38 件（応募 70 件）、ポスター発表 5 件（応募 6 件）、ワークショップ 3 件（応募 4 件）を採択した。プログラムの編成と司会者の人選をおこなった。

[大会実行委員とのうちあわせ]

- (1) 会場校の準備状況が説明された。
- (2) 会場、懇親会、使用機器、プログラム掲載情報等について検討、確認した。
- (3) 会場予定の教室等を見学した。

2009 年度第 1 回編集委員会

日 時：2009 年 4 月 11 日（土）13:00～16:00

場 所：大阪ガーデンパレス会議室（新大阪）

出席者：窪菌晴夫（委員長）、風間伸次郎、工藤真由美、熊本 裕、郡司隆男、斎藤衛、砂川有里子、新田哲夫、松本 曜

[報告事項]

- (1) 『言語研究』136 号（2009 年 9 月刊行予定）の内容について
- (2) 2008 年度の投稿・審査状況および現在の編集状況について
- (3) 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の採択結果および内定額について

[審議事項]

- (1) 投稿論文の受付から審査結果の通知に至る審査の手順を確認した。
- (2) 査読報告書の内容について検討を加えた。
- (3) 特集テーマと執筆（懲億）候補者
 - ・138 号（2010 年 9 月号）の特集テーマを「コーパスを活用した言語研究」とし、4 名の執筆候補者を選出した。
 - ・140 号（2011 年 9 月号）の特集テーマを「言語の変化」とした。
- (4) 海外特別編集委員の候補者を選出した。
- (5) 投稿促進の工夫として、前期に引き続き、大会発表者へ投稿の働きかけをおこなう。また、書評論文、書評紹介を増やすために、編集委員がそれぞれの研究分野で優れた図書を選び、書評執筆候補者名とあわせて編集委員長に提案する。
- (6) 投稿規程にある「未公開論文」の範囲については次回の編集委員会で審議する。

2008 年度会計監査

日 時：2009 年 5 月 9 日（土）9:00～13:30

場 所：中西印刷 NACOS 学会フォーラム

出席者：佐藤昭裕（前期会計監査委員）、吉田和彦（前期会計監査委員）、上野善道（前期会長）、林 徹（前期事務局長）、糸魚川共子（NACOS 学会フォーラム（事務局））

佐藤昭裕、吉田和彦両委員により 2008 年度決算書と関係書類について監査が実施された。

2009 年度第 1 回常任委員会

日 時：2009 年 5 月 17 日(日) 11:00～16:30

場 所：東京大学留学生センター

出席者：影山太郎(会長), 井上 優(事務局長・
大会運営委員長), 荻野綱男, 菊地康人,
久保智之, 田野村忠温, 長谷川信子, 早
津恵美子, 吉田和彦

オブザーバー：窪菌晴夫(編集委員長), 小
野尚之(次期大会運営委員長), 玉岡賀
津雄(広報委員長), 高田智和(事務局
長補佐)

[今期の基本方針について]

会長より「シームレスな学会作り」を今
期の基本方針とし, (i) 執行部と会員の
シームレスなつながり, (ii) 日本語
学会と他の関連学会とのシームレスなつ
ながり, (iii) 学会と社会のシームレス
なつながり, (iv) 日本と外国とのシーム
レスなつながりを図りたいとの説明が
あった。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員(任期を含む)が確認された。
 - ・常任委員, 各種委員会委員に対する委嘱状の発行について, 会長と事務局長で検討する。
- (2) 2008 年度会計監査および決算について
 - ・2008 年度決算書(夏期講座決算報告を含む。5 月 9 日会計監査済み)の内容が報告され, 承認された。
 - ・収支簿の形式, 領収書の書式等を各種委員会で統一することを検討する。
- (3) 2009 年度科学研究費補助金について
 - ・科学研究費補助金成果公開促進費の 2009 年度交付額が 180 万円(2008 年度と同額)であること, 6 月に『言語研究』136・137 号の入札をおこなう予定であることが報告された。
 - ・来年以降, 入札時期について再検討する。
- (4) 2010 年以降の大会について
 - ・会長より今後の大会の予定について報告

があった。

第 138 回(2009 年春) 神田外語大学

第 139 回(2009 年秋) 神戸大学

第 140 回(2010 年春) 筑波大学

第 141 回(2010 年秋) 東北大学

第 142 回以降は打診中。

- ・新型インフルエンザへの対応について協議した。

(5) 各種委員会からの報告

- ・編集委員会

『言語研究』136 号の内容, 現在の投稿・査読状況について報告があった。また, 138 号, 140 号の特集のテーマがそれぞれ「コーパスを活用した言語研究」, 「言語の変化」に決定したこと, 海外特別編集委員の依頼が完了したこと, 投稿規程にある「未公開論文」の範囲について検討中であることが報告された。

- ・大会運営委員会

第 138 回大会(2009 年春季大会, 神田外語大学)の準備状況と応募・採択状況, 7 月発足の次期大会運営委員会のメンバーについて報告があった。また, 第 139 回大会(2009 年秋季大会, 神戸大学)からワークショップを大会 2 日目午前に移すことが承認された。

- ・広報委員会

学会ホームページのデザイン変更, ならびに Webmaster の負担を減らすためのシステム変更を検討中であることが報告された。

[審議事項]

- (1) 広報委員会の任期と委員追加について
 - 委員を半数交代とするために玉岡委員長の任期を「2010 年 8 月まで」とすること, 委員を 2 名追加すること(人選は会長と相談)が承認された。
- (2) 夏期講座小委員会の任期と委員追加について
 - 今期小委員会の任期を「2012 年夏期講座終了まで」とすること, 西村義樹氏が委員に追加することが承認された。

- (3) 電子ジャーナルについて
「電子ジャーナル化ワーキンググループ」を常任委員会に設置することが承認され、荻野綱男、郡司隆男、田野村忠温の各氏が委員に指名された。
- (4) 会則等の改定について
会長より「学会業務の円滑な遂行のために、現状と合致しなくなっている部分を現状に合致させるとともに、名称等で不便な点を解消する」ための会則改定が提案され、原案について検討した。
- (5) 旅費等支給のガイドラインについて
・学会用務のための旅費・日当等の支給の基準を再検討し、支給対象となる用務の範囲と支出の条件をより明確にした。
・日当を3,000円から2,000円に引き下げること、次回大会実行委員長の大会時の「委員会」へのオブザーバー出席に対して必要に応じて前泊分の宿泊費10,000円を支給する（交通費は支給しない）ことが承認された。
・会長より、2007年11月21日常任委員会承認の「委員長等への必要経費補助の支払いに関する申し合わせ」を破棄して事務局長経費（月額30,000円）を復活させることが提案され、審議の後、承認された。Webmasterへの必要経費補助は広報委員会の予算から支出する（月額は会長と広報委員長で検討）。
- (6) 小委員会について
・会長より、各種委員会を「学会運営に関する委員会」（編集・大会・広報）と「社会発信・言語学普及に関する委員会」に再編成すること、夏期講座小委員会と「危機言語」小委員会はこれまでの活動を総括した上で「社会発信・言語学普及に関する委員会」という枠組みの中で位置づけなおすことが提案され、意見交換の後、了承された。
・「社会発信・言語学普及に関する委員会」について検討するワーキンググループの設置が承認され、常任委員からは久保智之氏が指名された。他のメンバーは会長と相談の上決定する。（注：メンバー選出

の過程で、ワーキンググループでなく「小委員会」の形で提案することになった。）

- (7) 2009年度予算案について
2009年度予算について審議し、常任委員会原案を作成した。また、繰越金の使途について検討した。
- (8) 言語系学会連合について
言語系学会連合設立ワーキンググループの委員である窪蘭晴夫氏よりこれまでの経過と学会連合会則案について説明があった。また、学会連合について検討する「学会連合ワーキンググループ」の設置が承認され、菊地康人、長谷川信子、早津恵美子、吉田和彦の各氏が委員に指名された。

2009年度第1回夏期講座小委員会

日時：2009年6月19日（金）15:00～20:45
場所：神田外語大学1号館3階第2会議室
出席者：三原健一（委員長）、風間伸次郎、堀川智也、橋本喜代太、加藤重広

- (1) 新委員について
委員長より、大会時の「委員会」において、西村義樹氏の新規加入が正式承認される見込みであることが報告された。
- (2) 夏期講座2010の準備状況について
・加藤委員より実行委員体制案（実行委員長 加藤重広、実行委員 李連珠、佐々木冠）が提案され、承認された。
・加藤委員から夏期講座2010の会場・宿泊関係の準備状況について報告があった。
- (3) 夏期講座2010の科目と講師について
・科目を次のように決定し、各科目の講師候補について検討した。
初級：生成文法、アイヌ語、第二言語習得
初中級：音声学、言語類型論、フィールド言語学
中上級：生成文法、会話分析、日本語文法論、認知言語学、意味論、社会言語学
- (4) その他
・ヨーロッパ日本語教師会などを含む海外

の団体にも夏期講座の宣伝をおこなうことにした。

- ・2012年以降の夏期講座の開催地について検討した。

2009年度第1回委員会

日時：2009年6月20日(土) 10:30～13:00

場所：神田外語大学1号館3階大会議室

出席者：影山太郎(会長)、井上 優(事務局長・大会運営委員長)、青柳 宏、池田潤、伊藤たかね、上山あゆみ、大堀壽夫、荻野綱男、加藤重広、風間伸次郎、梶茂樹、菊地康人、久保智之、窪菌晴夫(編集委員長)、熊本 裕、呉人 恵、郡司隆男、小泉政利、後藤 斉、坂原 茂、坂本 勉、佐久間淳一、佐々木冠、定延利之、佐藤昭裕、清水克正、庄垣内正弘、杉浦滋子、砂川有里子、田野村忠温、玉岡賀津雄(広報委員長)、塚本秀樹、柘植洋一、角田太作、西村義樹、新田哲夫、野田尚史、益岡隆志、松村一登、峰岸真琴、三原健一(夏期講座小委員会委員長)、長谷川信子(第138回大会実行委員長)、早津恵美子、日比谷潤子、藤代 節、堀江薫、藪 司郎、吉田和彦、鷲尾龍一、和田学(委員出席者49名)

委任状：17名

オブザーバー：井上和子(顧問)、田窪行則(会計監査委員)、林 徹(会計監査委員)、西光義弘(第139回大会実行委員長)、千葉庄寿(危機言語小委員会委員長)、小野尚之(次期大会運営委員長)、高田智和(事務局長補佐)、梅谷博之(臨時事務局長補佐)、三村竜之(臨時事務局長補佐)

[報告事項]

- (1) 第138回大会について
会長より開催校である神田外語大学に対する謝意が表された後、大会実行委員長の長谷川信子氏より挨拶があった。
- (2) 第139回大会について
第139回大会(2009年度秋季大会)が11月28日(土)・29日(日)に神戸大

学で開催されることが報告され、大会実行委員長の西光義弘氏より挨拶があった。

- (3) 今期の基本方針について
会長より「シームレスな学会作り」を今期の基本方針とし、(i) 執行部と会員のシームレスなつながり、(ii) 日本語学会と他の関連学会とのシームレスなつながり、(iii) 学会と社会のシームレスなつながり、(iv) 日本と外国とのシームレスなつながりを図りたいとの説明があった。
- (4) 今期の学会の組織・委員について
今期の学会の組織・役員(任期を含む)について確認がなされた。また、次の2点が承認された。(i) 夏期講座小委員会の委員に西村義樹氏を追加する(2009年10月より)。(ii) 玉岡賀津雄広報委員長の任期を2010年8月までとする(委員を半数交代とするため)。
- (5) 2009年度科学研究費補助金について
科学研究費補助金成果公開促進費の2009年度交付額が180万円(2008年度と同額)であること、6月に『言語研究』136・137号の入れをおこなう予定であることが報告された。また、科学研究費補助金の経理担当常任委員として早津恵美子氏が承認された。
- (6) 2010年以降の大会について
2010年度春季大会は6月19日・20日に筑波大学(大会実行委員長 池田潤氏)で開催されること、2010年度秋季大会は11月に東北大学で開催予定であることが報告された。
- (7) 各種委員会の活動報告
 - ・編集委員会
2008年度の投稿・査読状況、特別編集委員(表紙裏の編集委員一覧を参照)の決定、ならびに『言語研究』138号、140号の特集テーマがそれぞれ「コーパスを活用した言語研究」、「言語の変化」に決定したことについて報告があった。
 - ・大会運営委員会
第138回大会開催までの経過、発表応募・採択状況、第139回・第140回大会の準

備状況について報告があった。第139回大会からワークショップを大会2日目午前前に移すこと、2009年7月より小野尚之氏を委員長とする新委員会が発足すること（半数交代に戻すために時本真吾氏の任期を1年半延長すること）も報告された。

・広報委員会

学会ホームページのリニューアル、委員の追加（2名）について検討中であることが報告された。

・夏期講座小委員会

第7回夏期講座を2010年8月23日（月）～28日（土）に北海道大学（実行委員長 加藤重広氏）で開催すること、講座の内容は年内に学会ホームページに掲載予定であることが報告された。

・「危機言語」小委員会

2009年3月14日（土）に「危機言語」シンポジウム「日本のなかの危機言語—アイヌ語、琉球語、本土方言—」（東京大学文学部法文二号館）を開催し、60名の参加があったこと、2009年度はこれまでの活動の総括をおこない、ワークショップやシンポジウムは実施しないことが報告された。

(8) 学会連合について

言語系学会連合設立ワーキンググループ委員である窪菌晴夫氏より、設立準備作業と学会連合会則案について説明があり、日本言語学会として言語系学会連合に参加することが確認された。また、学会連合会則案の検討等のために常任委員会に学会連合ワーキンググループ（菊地康人、長谷川信子、早津恵美子、吉田和彦）を設置したことも報告された。[別記1] 参照。

(9) その他

中西印刷に学会事務局の業務委託をおこなったこと、『学術用語集（言語学編）』が再刊になることが報告された。

[審議事項]

(1) 2008年度決算について

2008年度決算について、事務局長より説明がなされた後、佐藤昭裕、吉田和彦前期会計監査委員より適正との報告があり、拍手多数により承認された。[別表1] 参照。

(2) 会則等の改定

会長より「学会業務の円滑な遂行のために、現状と合致しなくなっている部分を現状に合致させるとともに、名称等で不便な点を解消する」という趣旨のもとで以下の会則改定をおこなうことが提案され、審議の後、挙手多数（45名）により原案が一括承認された。（新旧対照表は次号（137号）に掲載。学会ホームページ参照。）

【会則・規則全体】

- ・会員の選挙により選ばれる「委員」の名称を「評議員」に変更。「委員会」の名称も「評議員会」に変更。
- ・従来の「評議員」の名称を「特別顧問」に変更。

【第1章・第7章】

- ・事務局の所在地を「会長または事務局長の所属機関」に変更し、従来の「事務局」（LSJ Office）は事務局業務委託先として規定。（注：この改定により、事務局を国立国語研究所（事務局長の所属機関）に置くことになった。）

【第3章】

- ・常任委員会と評議員会の職務に関する記述を現状に即して修正。
- ・各種役員・委員会に関する記述の形式と順序を変更。

【重要な国際会議への派遣の選出方法】

- ・現状に即して修正。

【日本言語学会会議規則】

- ・「評議員会会議規則」に変更し、委任状の扱いを含む議決の方法を再規定。

【その他】

- ・上記の変更をふまえて会則・規則全体の整合性をチェックし、必要な修正を加える。

- (3) 小委員会について
 会長より「小委員会の活動を総括し、社会発信・言語学普及を任務とする委員会を新たに設置する」という方針が説明された。また、その検討のための「言語学普及検討小委員会」（仮称）を設置することが会長より提案され、審議の後、拍手多数により承認された。（注：承認の後、久保智之（委員長）、風間伸次郎、梶茂樹、木部暢子、呉人恵、佐々木冠、千葉庄寿の各氏が委員に指名された。）
- (4) 2009年度予算について
 2009年度予算案について説明がなされ、審議の後、拍手多数により承認された。[別表2] 参照。

[今期選挙管理委員の選出]

今期選挙管理委員の選挙をおこない、加藤重広氏、定延利之氏を立会人とする開票の結果、以下の各氏が選挙管理委員に選出された。
 相澤正夫、荻野綱男、風間伸次郎、菊地康人、杉浦滋子、砂川有里子、長谷川信子、鷲尾龍一

2009年度第1回言語学普及検討小委員会

日時：2009年7月19日(日) 11:00~16:00
 場所：九州大学東京オフィス（有楽町）
 出席者：久保智之（委員長）、風間伸次郎、梶茂樹、呉人恵、佐々木冠、千葉庄寿
 オブザーバー：影山太郎（会長）、井上優（事務局長）

- (1) 影山会長より小委員会のメンバー紹介と委員会の任務について説明があった。
 (2) 久保委員長を議長として、夏期講座小委員会、「危機言語」小委員会の設置の経緯と各小委員会のこれまでの活動内容について、情報の共有をおこなった。
 (3) 夏期講座小委員会と「危機言語」小委員会を「社会発信・言語学普及に関する

委員会」という枠組みの中で位置づけなおすことについて、さまざまな観点から検討をおこなった。

- (4) 秋の常任委員会に小委員会としての原案を提出することをめざして、もう1回委員会を開催する。

その他の活動

- ・学術振興会からの指摘に対する対応「事務局」の名称が、学会運営をおこなう事務局と会員に対する窓口業務を担当する事務局（中西印刷 NACOS 学会フォーラム）の両方に用いられていたため、両者の区別を明確にするために、会員窓口担当の名称を「事務支局」とし、事務局業務委託先であることを明確にした。2009年度第1回委員会審議事項(2)も参照。
- ・中西印刷 NACOS 学会フォーラムとの間の業務契約を更新した。
- ・『言語研究』136号、137号の出版について一般競争入札を実施した（6月12日公告、23日締切、25日開札（国立国語研究所））。中西印刷一社のみから入札があり、4,252,500円（うち消費税額202,500円）で落札された。
- ・常任委員会学会連合ワーキンググループの会議を開催し、学会連合会則案について検討した（6月21日、神田外語大学）。電子メールによる審議を経て修正案が作成され、窪蘭晴夫氏（学会連合設立ワーキンググループ委員）に提出された。
- ・言語系学会連合設立ワーキンググループの会議が開催され、日本言語学会からは窪蘭晴夫氏が出席した（7月25日、神戸大学）。
- ・常任委員会電子ジャーナル化ワーキンググループの会議を開催し、『言語研究』のアーカイブ化と電子ジャーナル化の基本方針について検討した（8月12日、関西学院大学梅田キャンパス）。

【別記1】「言語系学会連合」設立に関する報告

日本は欧米諸国に比べ、文系、理系のいずれの分野でも学会の数が多く、また各学会の規模が比較的小さいという状況にありました。この状況を打開し、学会間の連携を深めるために「学会連合」を作る動きが活発化しています。理系の諸分野はもとより、人文系においても地理学、哲学、社会学等の分野で既に学会連合が設立され、社会的貢献や施策の提言も含めた多面的な活動を行っています。言語系の学問分野におきましても、日本学術会議からの働きかけを受けて、日本言語学会、日本語学会、日本英語学会、日本語教育学会、全国語学教育学会の5学会を幹事学会として「言語系学会連合」を設立する作業が進んでいます。具体的な作業は各学会から1名ずつ選出された委員が設立ワーキンググループ（以下「設立WG」）を構成して行うことになり、日本言語学会からは前期の常任委員の窪園（神戸大学）がそのメンバーとなりました。

設置WGは2010年4月の学会連合発足を目標に、これまで3回会合を持ちました（2008年12月26日、2009年3月18日、同年7月25日）。学会連合の主な目的を(i)ホームページを開設し、学会間の情報交換を図ること、(ii)日本学術会議等との連絡、(iii)各学会の大会日程調整、多重発表のチェック、(iv)公開シンポジウムや夏期講座等の共同開催あるいは共催・協賛とし、2010年3月までに次の作業を行う予定です。

1. 学会連合規約の制定
2. 学会連合ホームページの開設
3. 事務局体制や年会費等の決定
4. 言語系他学会への参加呼びかけ

設立WGの協議事項はWGの委員が各所属学会に持ち帰り、所属学会の了承を得た後に正式決定することになっています。これまでの作業で、言語系学会連合の運営について次のことが決まりました。

- ・言語系学会連合は2010年4月から当分の間、上記5幹事学会からの代表者を中心に運営委員会を組織する。
- ・運営委員長と事務局は幹事学会が2年交代で行う。担当は科研費の分科細目順とする（2010年度から2年間は日本言語学会、次いで日本語学会、日本英語学会、日本語教育学会、全国語学教育学会が務める）。
- ・学会連合設立後の年会費（負担金）は幹事学会が一律に年5万円を、他の学会は学会の規模（会員数）に応じて定められた額を拠出する。また設立時に幹事学会から一時負担金を徴収する。

（文責）窪園晴夫

【別表 1】2008 年度日本語学会決算

自 2008 年 4 月 至 2009 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	14,323,500	刊 行 費	4,445,805
雑 誌 売 上	1,457,750	発 送 費	416,460
科学研究費補助金	1,800,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	1,245	大 会 関 係 費	4,050,716
預 金 金 利	22,664	委 員 会 費	267,205
大会関係収入	2,231,500	編 集 委 員 会 費	278,631
雑 益	18,210	大会運営委員会費	865,359
基金からの繰入	2,200,000	広 報 委 員 会 費	0
夏期講座収入	1,054,745	常 任 委 員 会 費	634,713
		「危機言語」小委員会費	178,916
		夏期講座小委員会費	70,840
		事 務 局 費	712,128
		危機言語シンポジウム費	324,882
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	497,695
		消 耗 品 費	231,776
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	2,485,280
		選 挙 関 係 費	801,397
		予 備 費	69,150
収 入 合 計	23,109,614	支 出 合 計	20,724,953
前 期 繰 越 金	4,357,247	次 期 繰 越 金	6,741,908
計	27,466,861	計	27,466,861

〈特別会計〉 ※詳細は別紙（日本語学会夏期講座 2008 決算報告）参照

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
夏期講座収入	6,918,935	夏期講座支出	5,864,190
		日本語学会口座へ送金	1,054,745
計	6,918,935	計	6,918,935

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内個人会員	12,047,000
国内維持会員	150,000
国内学生会員	921,000
国内団体会員	749,000
国内賛助会員	30,000
在外個人会員	367,000
在外維持会員	10,000
在外学生会員	49,500

合 計	14,323,500
-----	------------

雑誌売上

書店販売	
三省堂書店	56,700
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	1,042,800
丸善	201,600
その他書店	56,700
事務局販売	99,950

合 計	1,457,750
-----	-----------

科学研究費補助金	1,800,000
----------	-----------

科学研究費補助金利息	1,245
------------	-------

預金金利	22,664
------	--------

大会関係収入

大会出店料	
136 回大会（10 店）	100,000
136 回大会 1 日のみ（2 店）	10,000
136 回大会 2 スペース（3 店）	60,000
137 回大会（6 店）	60,000
予稿集売上	
136 回大会	1,232,000
137 回大会	686,000
事務局（115～136回大会バックナンバー）	59,000
保育関係収入	24,500

合 計	2,231,500
-----	-----------

雑益	18,210
----	--------

基金からの繰入

2007 年度名簿作成積立金	700,000
2007 年度選挙関係積立金	300,000
2006 年度名簿作成積立金	700,000
2006 年度選挙関係積立金	300,000
2000 年度危機言語プロジェクト積立金	200,000

合 計 2,200,000

夏期講座収入

1,054,745

◇支出内訳 (単位: 円)

刊行費

印刷部数 各号共に 2,300 部

内 訳	134 号 (230 p.)	135 号 (232 p.)	計 (462 p.)
印刷費	2,192,400	2,211,300	4,403,700
抜刷代	20,790	21,315	42,105
合 計	2,213,190	2,232,615	4,445,805

※割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』 発送料	134 号	191,730
	135 号	224,730

合 計 416,460

事務委託費

4,284,000

2008 年 4 月分～2009 年 3 月分

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

大会関係費

内 訳	第 136 回	第 137 回	計
プログラム印刷費	105,000	105,000	210,000
ポスター印刷費	116,700	127,200	243,900
出欠葉書印刷費	24,150	24,150	48,300
予稿集印刷費	895,860 (650 部発行)	846,984 (380 部発行)	1,742,844
その他印刷費／備品	86,941	22,050	108,991
大会関係発送費	213,930	178,338	392,268
大会費	660,887	234,064	894,951
講師謝金等	152,020	201,180	353,200
託児関係支払	—	56,262	56,262
合 計	2,255,488	1,795,228	4,050,716

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

委員会費

通信費	28,920
旅費	50,940
会議費	167,395
資料印刷費	19,950

合 計	267,205
-----	---------

編集委員会費

通信費	46,210
旅費	144,140
会議費	5,221
アルバイト費	83,060

合 計	278,631
-----	---------

大会運営委員会費

通信費	20,015
旅費	749,110
会議費	35,354
雑費	880
謝金	60,000

合 計	865,359
-----	---------

広報委員会費

0

常任委員会費

旅費	603,350
会議費	31,363

合 計	634,713
-----	---------

「危機言語」小委員会費

通信費	3,120
旅費	132,580
会議費	35,139
消耗品費	3,557
印刷費	4,520

合 計	178,916
-----	---------

夏期講座小委員会費

通信費	840
旅費	58,000
会議費	12,000

合 計	70,840
-----	--------

事務局費

通信費	5,780
旅費	258,920
会議費	8,400
消耗品費	1,028
事務局長補佐	120,000
役員等経費補助	318,000

合 計 712,128

「危機言語」シンポジウム費

通信費	2,130
旅費	146,900
会議費	22,804
消耗品費	1,848
印刷費	88,200
謝金	60,000
広告掲載料	3,000

合 計 324,882

CIPL 負担金 110,000

通信費

切手購入	70,470
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	25,200
会費請求・督促状送料	225,490
カード手数料・送金手数料	115,160
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	56,155
大会関係送料	1,680
その他（文科省提出書類発送等）送料	3,540

合 計 497,695

消耗品費

文房具購入費	15,686
振替用紙印刷費	53,340
封筒印刷費	162,750

合 計 231,776

名簿作成費

データ調査印刷費	138,600
データ調査通信費	302,020
会員名簿印刷費	1,344,000
会員名簿通信費	626,940
アルバイト費	30,630
その他	43,090

合 計	2,485,280
-----	-----------

選挙関連費

選挙関連印刷費	354,060
選挙関連通信費	409,125
旅費	25,040
会議費	13,172

合 計	801,397
-----	---------

予備費

学会連合会合出席旅費	69,150
------------	--------

◇ 2008 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	13,000,000	14,323,500	1,323,500
雑誌売上	500,000	1,457,750	957,750
科学研究費補助金	1,800,000	1,800,000	0
科学研究費補助金利息	0	1,245	1,245
預金金利	2,000	22,664	20,664
大会関係収入	1,600,000	2,231,500	631,500
雑収入	20,000	0	△ 20,000
雑益	0	18,210	18,210
基金からの繰入	2,200,000	2,200,000	0
夏期講座収入	1,000,000	1,054,745	54,745
収入合計	20,122,000	23,109,614	2,987,614
前期繰越金	4,357,247	4,357,247	0
合計	24,479,247	27,466,861	2,987,614

支出

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	5,663,637	4,445,805	1,217,832
発送費	500,000	416,460	83,540
事務委託費	4,284,000	4,284,000	0
大会関係費	4,000,000	4,050,716	△ 50,716
委員会費	200,000	267,205	△ 67,205
編集委員会費	600,000	278,631	321,369
大会運営委員会費	900,000	865,359	34,641
広報委員会費	500,000	0	500,000
常任委員会費	600,000	634,713	△ 34,713
「危機言語」小委員会費	300,000	178,916	121,084
夏期講座小委員会費	300,000	70,840	229,160
事務局費	700,000	712,128	△ 12,128
危機言語シンポジウム費	300,000	324,882	△ 24,882
夏期講座費	1,200,000	0	1,200,000
C I P L 負担金	110,000	110,000	0
通信費	600,000	497,695	102,305
消耗品費	300,000	231,776	68,224
雑費	21,610	0	21,610
名簿作成費	2,100,000	2,485,280	△ 385,280
選挙関係費	900,000	801,397	98,603
予備費	400,000	69,150	330,850
支出合計	24,479,247	20,724,953	3,754,294
次期繰越金	0	6,741,908	△ 6,741,908
合計	24,479,247	27,466,861	△ 2,987,614

◇資産勘定

2009年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務局		前受会費	
現金	150,120	国内個人	182,500
みずほ銀行口座	3,109,700	国内学生	116,000
郵便振替口座	5,851,071	国内団体	
カード	8,500	在外個人	40,000
本部事務局		在外学生	
事務局口座	0	前受購読料	207,900
常任委員会口座	0	未払金**	4,880,879
「危機言語」小委員会口座	0		
大会運営委員会口座	0		
編集委員会口座	0		
夏期講座小委員会口座	315		
未収金*	3,049,481		
		次期繰越	6,741,908
計	12,169,187	計	12,169,187

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2008年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』売上げ(松香堂取次分)	1,042,800
大会予稿集売上(会場販売分)	686,000
第137回大会費戻し入れ	265,936
夏期講座収入	1,054,745
合計	3,049,481

** 未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目。

2008年度決算の未払金の内訳は下記の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』第135号刊行費	2,211,300
『言語研究』第135号発送費	224,730
『言語研究』第135号別刷り印刷費	21,315
事務委託費(3月分)	357,000
会員名簿印刷費	1,344,000
会員名簿発送費	626,940
会員名簿封筒印刷	38,850
消耗品費(封筒印刷)	16,800
委員会費未払分	975
大会運営委員会費未払分	28,969
CIPL負担金(一部)	10,000
合計	4,880,879

基金 決算 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計(前期繰越)	11,060,594	一般会計へ支出	2,200,000
定期預金金利	6,959		
収入合計	11,067,553	支出合計	2,200,000
		次期繰越金	8,867,553
計	11,067,553	計	11,067,553

基金 資産勘定 2009年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	5,050,000	積立金	8,867,553
京都銀行定期預金口座	3,817,553		
計	8,867,553	計	8,867,553

○基金内訳

2009年3月31日 (単位：円)

2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
2004年度記念大会積立金*	1,000,000
2004年度夏期講座積立金**	2,000,000
2004年度危機言語プロジェクト積立金	401,052
2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
2003年度記念大会積立金	1,200,000
2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
2002年度記念大会積立金	400,000
2001年度記念大会積立金	400,000
2000年度記念大会積立金	400,000
1999年度記念大会積立金	500,000
1998年度記念大会積立金	250,000
預金利子積立分***	16,501
計	8,867,553

*2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期(預金番号002)に一括して積立。

**2004年度夏期講座積立金は、みずほ銀行定期(預金番号035)に600,000円、京都銀行定期(預金番号002)に1,400,000円積立

*** 京都銀行定期(預金番号002)に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息

2009年3月31日 (単位:円)

記念大会積立金		
	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,200,000
	2002年度	400,000
	2001年度	400,000
	2000年度	400,000
	1999年度	500,000
	1998年度	250,000
夏期講座積立金		
	2004年度***	2,000,000
危機言語プロジェクト積立金		
	2005年度	300,000
	2004年度	401,052
e-ジャーナル積立金		
	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,000,000
預金利子積立分***		16,501
計		8,867,553

○基金内訳 (銀行別) 2009年3月31日 (単位:円)

銀行名	預かり番号	名目	金額
みずほ銀行	039	2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004年度記念大会積立金*	1,000,000
みずほ銀行	035	2004年度夏期講座積立金	600,000
京都銀行	002	2004年度夏期講座積立金*	1,400,000
京都銀行	001	2004年度危機言語プロジェクト積立金	401,052
京都銀行	002	2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
みずほ銀行	038	2003年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	014	1999年度記念大会積立金	500,000
みずほ銀行	007	1998年度記念大会積立金	250,000
京都銀行	(002)	預金利子積立分**	16,501
計			8,867,553

*2004年度記念大会積立金1,000,000円, 2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円, 2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期(預金番号002)に一括して積立。

**京都銀行定期(預金番号002)に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円, 2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円, 2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息

【別表2】2009年度日本語学会予算

自 2008年4月 至 2009年3月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	5,182,846
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	500,000
科学研究費補助金	1,800,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,500,000
預 金 金 利	2,000	委員会費(評議員会費)	200,000
大会関係収入	1,600,000	編 集 委 員 会 費	600,000
雑 収 入	10,000	大会運営委員会費	900,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	600,000
基金からの繰入	0	常 任 委 員 会 費	1,000,000
夏期講座収入	0	[危機言語]小委員会費	200,000
		夏期講座小委員会費	300,000
		言語学普及小委員会費	600,000
		事 務 局 費	900,000
		危機言語シンポジウム費	0
		夏 期 講 座 費	0
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	400,000
		雑 費	77,062
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		予 備 費	600,000
		(基金への繰入)	
		名 簿 作 成 積 立 金	700,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		言 語 学 普 及 積 立 金	500,000
		e- ジャーナル積立金	500,000
取 入 合 計	16,912,000	支 出 合 計	23,653,908
前 期 繰 越 金	6,741,908	次 期 繰 越 金	0
計	23,653,908	計	23,653,908

第 138 回大会

期 日 2009 年 6 月 20 日 (土)・6 月 21 日 (日)

会 場 神田外語大学

会長就任講演 6 月 21 日 10:10 ~ 11:30

言語の構造制約と叙述機能

影山 太郎

公開シンポジウム 6 月 21 日 13:30 ~ 16:00

文の周縁部の構造と日本語

司会 長谷川信子

The Cartography of Syntactic Structures:

Luigi RIZZI

Locality and Freezing Effects on Movement

談話文法

井上 和子

主語のカートグラフィー

遠藤 喜雄

文タイプ (Force) と人称制限

長谷川信子

口頭発表・ワークショップ 6 月 20 日 13:30 ~ 18:00

◦ A 会場

(A 1) 13:30 ~ 日本語軽動詞構文の多重主要部分分析 小林ゆきの

(A 2) 14:05 ~ 日本語のいわゆる「代名詞一名詞」構造と (代) 名詞句の内部構造について 猪熊 作巳

(A 3) 14:45 ~ 日本語における DegP 投射—過剰表現の分析を通じて 伊藤 祐輝

(A 4) 15:20 ~ On the phonological reduction and diffusion of the nominative case particle *No* in Old Japanese Shigeyuki KOBAYASHI

ワークショップ 1

16:10 ~ 古代日本語の形態・統語論的变化—名詞化活用形の変遷とその統語的帰結—

企画・司会 ジョン・ホイットマン

連用形・終止形とその統語論的再建 柳田 優子

節の名詞化としての連体形—共時的及び通時的分析— 西山 國雄

日本祖語の名詞化形と連体形及び已然形の再建 ジョン・ホイットマン

◦ B 会場

(B 1) 13:30 ~ 指示詞由来の間投詞「あの (一)」・「その (一)」について—情報 (話題) の「所有者」の観点から— 小川 典子

(B 2) 14:05 ~ 日本語の度量句を伴う場所項 野村 純也

(B 3) 14:45 ~ 日本語の「～ていく／くる」と韓国語の「-어 가다 / 오다 -e kata/ota」の意味機能—人称を中心に— 韓 京娥

(B 4) 15:20 ~ 中国朝鮮語延吉方言の敬語—中称 (hao 体) を中心に— 呉 春姫

ワークショップ 2

16:10 ~ 日韓語の文末形式の対照研究の新展開—構文論的・語用論的機能の対比を中心に—

企画 堀江 薫

司会 塚本 秀樹

指定討論者 生越 直樹

「のだ」と「것이다 (KES-ITA)」の談話機能の対比 金 廷珉

文末の文法形式に関する日韓対照考察—知識表明と現象描写の概念を中心として—
 文 彰鶴
 韓国語の半言と日本語の終助詞の類似点・相違点の提示—半言の用法分類からの試み—
 平 香織

◦C 会場

- (C 1) 13:30 ~ フィンランド語の A 不定詞変格形の意味機能について 坂田 晴奈
 (C 2) 14:05 ~ コリマ・ユカギール語の関係節における 3 種の分詞の用法 長崎 郁
 (C 3) 14:45 ~ ラオ語ビエンチャン方言の声調のコンテキスト間変異—末尾位置と非末尾位置の比較— 柳村 裕
 (C 4) 15:20 ~ タイ語の機能語 hây の意味変化の方向性 高橋 清子
 (C 5) 16:10 ~ モンゴル語の補助動詞《ab-》の意味について スチンガルラ
 (C 6) 16:45 ~ 現代ウイグル語の文法化助動詞にみる意図性の反映—baq-/kör- と al-/bol-— 山崎 雅人

◦D 会場

- (D 1) 13:30 ~ Sidaama (Sidamo) 語の“目的語”人称接尾辞によって表される文法関係 河内 一博
 (D 2) 14:05 ~ オリヤ語における、二重他動詞構文と、他動詞の使役構文 山部 順治
 (D 3) 14:45 ~ ヒンディー語・ウルドゥー語の rakhnaa (put/keep) による所有表現 今村 泰也
 (D 4) 15:20 ~ 北パキスタン諸言語での名詞反響 吉岡 乾
 (D 5) 16:10 ~ ギリシア語の方言分岐と音変化との間の相対年代 南本 徹
 (D 6) 16:45 ~ リトアニア語における n- 語幹名詞の語末音調について 山崎 瑤子
 (D 7) 17:20 ~ ノルド諸語から見たストレスアクセント—アクセント類型論の試み— 三村 竜之

◦E 会場

- (E 1) 13:30 ~ 三宅島坪田方言の名詞アクセント 堀田 浩司
 (E 2) 14:05 ~ 大阪方言外来語のアクセントと式について 田中 真一
 (E 3) 14:45 ~ 南琉球八重山波照間方言における格標識と語順 麻生 玲子
 (E 4) 15:20 ~ 南琉球宮古伊良部島方言における認識モダリティと m 語尾終止形について 下地 理則

ワークショップ 3

- 16:10 ~ 概念構造と他領域との接点—事象投射理論の可能性—
 企画・司会 岩本 遠億
 事象投射理論の概要 岩本 遠億
 空間表示との接点：両義的限界性の計算 岩本 遠億
 語用論との接点：期待値を表示する構造—「V すぎる」の事象投射構造— 井本 亮
 構文との接点：状態化の類型 上原由美子

◦ F 会場

- (F 1) 13:30 ~ Code switching in a Japanese-Chinese bilingual infant: MENG Hairong
A study on language dominance Tadao MIYAMOTO
- (F 2) 14:05 ~ 英語イメージングプログラムにおける日本語を母語と 江村 健介
する幼児による日本語の名詞複合語の理解 遊佐 典昭
木村 直樹
コルネリア・ダニエラ・ルブシャ
山口 早苗
萩原 裕子
- (F 3) 14:45 ~ Pre- and post-head phrasal parsing of canonical and Katsuo TAMAOKA
scrambled Japanese active sentences measured by Michiko ASANO
the eye-tracking method Yayoi MIYAOKA
Kazuhiko YOKOSAWA
- (F 4) 15:20 ~ ガ格三連続文の処理に有生性が及ぼす影響について 坂本 勉
安永 大地
- (F 5) 16:10 ~ 埋め込み構造の処理への右尾状核頭の関与—fMRI を 太田 真理
用いた研究— 福井 直樹
酒井 邦嘉
- (F 6) 16:45 ~ 日本語二重目的語文の脳内処理における基本語順の効 犬伏 知生
果 飯島 和樹
小泉 政利
酒井 邦嘉
- (F 7) 17:20 ~ 再解析は最後の手段か?—日本語目的語コントロール 金丸 一郎
構文における再帰代名詞の処理過程— 広瀬 友紀
伊藤たかね

◦ G 会場

- (G 1) 13:30 ~ NP と Event を分配する量化表現 dou (都) 王 慶
- (G 2) 14:05 ~ Negative Bias Nominative の意味解釈 田中 拓郎
- (G 3) 14:45 ~ 「しか」の意味及び否定との共起理由 小淵 Philip 麻菜
- (G 4) 16:10 ~ 二重目的語構文とフェイズ単位での数量詞作用域の決 三村 仁彦
定
- (G 5) 16:45 ~ 長距離および逆行束縛について 柴田 義行
- (G 6) 17:20 ~ 認識的モダリティの制御原理 (the ECP) の本質につ 秋庭 大悟
いて

ポスター発表 6月21日 11:30 ~ 13:00

◦ H 会場

- 提示動詞の構文パターンと文法化 澤田 淳
- no sooner/hardly/scarcely ~ than/when/before 構文の種 鈴木 大介
類と意味機能
- BCCWJ コーパスを用いた引用「ト」構文の分析—副 藤井 聖子
詞節的外付け用法を中心に—

◦I会場

統語プライミングを用いた, 主格の「が, の交替」を
許容する文の産出における助詞「が」, 「の」の出現
頻度の調査

藤原 崇

幼児の述部前置型単一項文の理解に及ぼす作動記憶容
量の影響

水本 豪

◇退 会

国内通常会員	204 名
海外通常会員	17 名
海外維持会員	1 名
国内学生会員	44 名
海外学生会員	4 名
国内団体会員	7 件